



MIRAI プログラム 2025 令和 7 年度結果概要

1. プログラム概要

外務省では、令和 7 年度「対日理解促進交流プログラム」の一環として、「MIRAI (Mutual-understanding, Intellectual Relations and Academic Exchange Initiative)」と称し、日本の政治・社会・歴史及び外交政策に関する理解促進や日本の魅力等の積極的な発信を目的とし、欧州・中央アジア・コーカサス地域から、将来の活躍が期待される大学生・大学院生及び若手実務者 69 名を招へいしました。

対面招へいでは地域およびテーマ毎に計 4 グループ（第 1 グループ西バルカン地域「平和構築」、第 2 グループ欧州各国「外交・安全保障」、第 3 グループ欧州各国「SDGs ビジネスとイノベーション」、第 4 グループ中央アジア・コーカサス地域「法の支配」）に分け、それぞれ実施しました。

参加者は、行政機関での講義の他、企業訪問、大学訪問、地方訪問、文化体験を通じ、日本を取り巻く国際情勢や日本の社会・経済・科学技術について理解を深めました。日程を終えた参加者からは、今後も日本に関心を持ち続け、またプログラムで育んだ日本との繋がりや学生交流で生まれた友情を大切にしていきたいとの思いも聞かれており、帰国後にそれぞれ SNS やその他のメディアを通じて、日本で学んだことや日本の魅力等を積極的に発信しています。この様に、本プログラムは、国際社会における対日イメージの向上や、日本に対する関心を持続的に高める役割を果たしています。

ア. 対面招へい日程

グループ「テーマ名」	日程	参加人数
第 1 グループ 「平和構築」	2026 年 2 月 13 日（金）来日～2 月 19 日（木）帰国	14 名（RYCO 引率 1 名を含む）
第 2 グループ 「外交・安全保障」	2026 年 1 月 14 日（水）来日～1 月 20 日（火）帰国	25 名
第 3 グループ 「SDGs ビジネスと イノベーション」	2026 年 1 月 14 日（水）来日～1 月 20 日（火）帰国	18 名
第 4 グループ 「法の支配」	2026 年 1 月 13 日（火）来日～1 月 19 日（月）帰国	12 名
招へい 合計		69 名

イ. グループ別参加国・人数・訪問地

第 1 グループ「平和構築」

選出国 西バルカン諸国 6 か国、14 名

No.	国名	人数（名）	No.	国名	人数（名）
1	アルバニア（RYCO 引率含む）*	3	4	モンテネグロ	1
2	ボスニア・ヘルツェゴビナ	3	5	北マケドニア	2

3	コソボ	2	6	セルビア	3
総計					14

*西バルカン地域青年協力機構（RYCO）

（訪問地：東京都、広島県）

第2グループ「外交・安全保障」

選出国 欧州22か国（国籍22か国）、25名

No.	国名	人数（名）	No.	国名	人数（名）
1	アンドラ	1	12	ラトビア	1
2	オーストリア	1	13	リトアニア	1
3	ベラルーシ	1	14	オランダ	2
4	チェコ	1	15	ノルウェー	1
5	エストニア	1	16	ポーランド	1
6	フィンランド	1	17	ポルトガル	1
7	フランス	1	18	ルーマニア	1
8	ドイツ	2	19	スロベニア	1
9	ハンガリー	1	20	スペイン	1
10	アイスランド	1	21	スウェーデン	1
11	イタリア	2	22	英国	1
総計					25

（訪問地：東京都、山梨県）

第3グループ「SDGs ビジネスとイノベーション」

選出国 欧州18か国（国籍17か国）、18名

No.	国名	人数（名）	No.	国名	人数（名）
1	ベルギー	1	10	モルドバ	1
2	ブルガリア	1	11	モナコ	1
3	クロアチア	1	12	ノルウェー	1
4	キプロス	1	13	サンマリノ	1
5	デンマーク	1	14	スロバキア	1
6	フランス	1	15	スペイン	1
7	ギリシャ	1	16	スイス	1
8	アイルランド	1	17	ウクライナ	1
9	マルタ	1	18	英国	1
総計					18

（訪問地：東京都、神奈川県、山梨県）

第4グループ「法の支配」

選出国 中央アジア・コーカサス地域8か国（国籍8か国）、12名

No.	国名	人数（名）	No.	国名	人数（名）
1	アルメニア	2	5	キルギス共和国	2
2	アゼルバイジャン	1	6	タジキスタン	1
3	ジョージア	2	7	トルクメニスタン	1
4	カザフスタン	2	8	ウズベキスタン	1
総計					12

（訪問地：東京都、山梨県）

2. 実施プログラム内容**(1) プレ・プログラム**

参加者全員に対して、本プログラム（訪日）前に次のようなプレ・プログラムをオンラインで実施した。

1. 動画配信：対日理解促進交流プログラム「M I R A I」事業概要説明
2. 全体オリエンテーション：外務省欧州局政策課長挨拶、日本理解講義
3. 渡航前オリエンテーション：訪日に必要な情報の共有（持ち物・渡航手続き他）、訪問先説明、質疑応答、等

(2) 招へい（対面）：本プログラム

2025年度は、公募(国によって国および大学推薦)の結果、大学生・大学院生並びに若手社会人等の合計69名（4グループ）が参加するに至った。

対面の招へいプログラムは6泊8日の日程で、関連講義の受講、日本各地における訪問先での視察、交流、意見交換、文化体験を通じて、テーマに沿った日本の取り組み内容を学んだ。

訪問先の大学では同世代の学生との知的交流を行い、欧州諸国と日本の将来のリーダーたちによるネットワークを構築した。参加者はプログラム参加を通じて日本に対する理解を深め、報告会ではアクション・プラン（帰国後の活動計画）を発表した。帰国後も日本の魅力等について、積極的にソーシャルメディア等による発信が期待されている。

第1グループ「平和構築」

西バルカン諸国6か国を対象とし、西バルカン地域青年協力機構（RYCO）が協力して選抜をし、外務省が承認した平和構築の研究に携わる大学生・大学院生13名及び、RYCOからの引率者1名を招へいた。

東京都及び広島県を訪問し、有識者による講義の受講や関連機関の視察・交流・意見交換を行った。

交流先である上智大学では、総合人間科学部教育学科 小松 太郎 教授の受入れのもと、日本人学生との活発な意見交換を行った。外務省では英利アルフィヤ外務大臣政務官を表敬し、また、日本の外交政策についての講義を受講した。JICAでは西バルカン地域における協力事業について学び、関係者と意見交

換を行った。広島では、被爆者二世によるガイドのもと原爆関連施設を訪れた。戦争の悲惨さや平和への大切さについて理解を深めた。また、杓子づくり体験や、宮島・厳島神社等、歴史的な場所の視察を通して日本文化に触れた。最終日には外務省内にて、成果報告を実施した。参加者には JICE の修了証書を授与した。

第2グループ「外交・安全保障」

欧州 22 か国より 25 名の大学生・大学院生を招へいした。

東京、山梨県を訪問し、有識者による講義の受講や関連機関の視察・交流・意見交換を行った。

外務省では日本の安全保障政策について、防衛省では日本の防衛政策について講義を受講した。また、人間の安全保障における JICA の取り組み、日本の領土・主権をめぐる情勢について話を聴くなど、多面的なアプローチを通じて参加者のテーマ関連の日本理解を深めた。学校交流では、慶應義塾大学法学部 細谷雄一教授と総合政策学部 鶴岡路人教授の受入れのもと、「日本の外交・安全保障政策の方向性」の聴講し、同世代の学生と意見交換を通して知的交流を行った。また、東京国立博物館では国宝や重要文化財を含む日本を中心としたアジア諸地域の文化財の鑑賞に加えて、浅草では散策をし、お抹茶体験をした。

最終日には、外務省内にて、第3グループ（SDGs ビジネスとイノベーション）、第4グループ（法の支配）招へい参加者と合同で田口精一郎欧州局参事官を表敬し、成果報告を実施した。参加者には JICE の修了証書を授与した。

第3グループ「SDGs ビジネスとイノベーション」

欧州 18 か国より 18 名の大学生・大学院生を招へいした。東京都、神奈川県、山梨県を訪問し、有識者による講義の受講や関連機関の視察・交流・意見交換を行った。

都内では、日本最大の証券取引所である東京証券取引所の視察、スタートアップ支援施設の見学、浅草商店街での街歩きなどを通して、日本の経済・ビジネスに関する幅広い取り組みを学んだ。東京都の国内外に向けたビジネス支援プログラムの活動を知り、ビジネス都市としての東京の魅力に触れた。経済産業省では、講義や意見交換を通じて、日本政府の GX（グリーントランスフォーメーション）政策の取り組みに対する理解を深めた。学校交流では、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 蟹江憲史教授の受入れのもと、同世代の学生と知的交流を行った。

山梨県では、雄大にそびえ立つ富士山や富士山世界遺産センターを視察し、世界文化遺産としての富士山に関する講義を受け、日本の自然や文化に触れた。

参加者は、日本の社会や政策、歴史、文化等の多方面から日本への関心・理解を深め、日本の魅力を発信するとともに、日本と世界が協力し合うことで形成されていく、より良い未来について考察した。

最終日には、外務省内にて、第2グループ（外交・安全保障）、第4グループ（法の支配）招へい参加者と合同で田口精一郎欧州局参事官を表敬し、成果報告を実施した。参加者には JICE の修了証書を授与した。

第4グループ「法の支配」

中央アジア・コーカサス地域 8 か国の大学生、大学院生、社会人 12 名を招へいし、東京都、及び山梨県で講義や意見交換を含めた交流・視察・文化体験を行った。

都内では外務省による講義をはじめ、最高裁判所、法務省関連施設、法律事務所を訪問し、日本の法制度について学んだ。学校交流では、慶應義塾大学大学院 法務研究科 松尾弘教授の受入れのもとで、将来の日本と中央アジア・コーカサス地域のネットワーク構築のため、同世代の学生との知的交流を行った。また、茶道体験や浅草の歴史ある寺院などを訪れ、日本の歴史的・文化的側面から日本への理解を深めた。

最終日には、外務省内にて、第2グループ（外交・安全保障）、第3グループ（SDGs ビジネスとイノベーション）招へい参加者と合同で田口精一郎欧州局参事官を表敬し、成果報告を実施した。参加者にはJICEの修了証書を授与した。

(3) フォローアップ（同窓会：オンラインプログラム）

2025年度のフォローアップ事業（同窓会）は、「MIRAI」の参加経験者（アルムナイ）に対し再び日本とつながり、親日的・知日的な活動やネットワークの拡大を促進し、日本の魅力を発信する取り組みを企画する契機となることを目的として、次の3つの枠組みにて実施した。

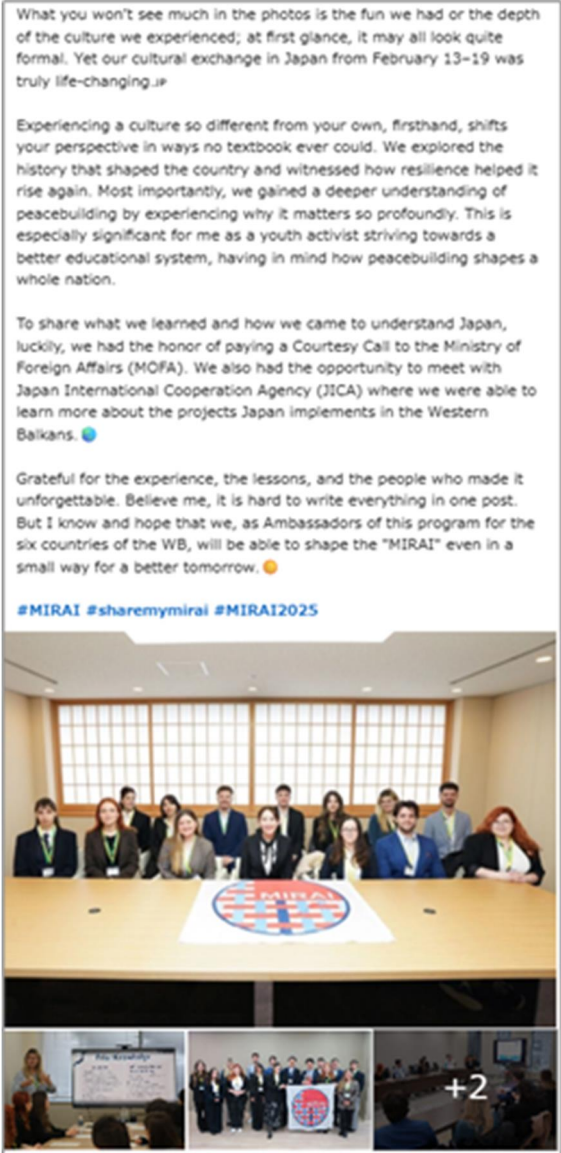
テーマ	実施回数	参加人数
海外展開をしている日本の事業組織を交えた同窓会	1回	28名
オンライン訪日プログラム（日本文化・学校交流等）	2回	44名
有識者を交えた意見交換会	1回	22名
【合計】	4回	94名

日本留学に対する関心やニーズは、同窓生やプログラム参加者の間で引き続き高い。海外展開をしている日本の事業組織を交えた同窓会では、JASSOより奨学金や大学連携に関する情報提供の講義や、留学生による体験談の共有が行われた。また、オンライン訪日プログラムでは、日本語レッスンを交えた日本文化講義や学校交流を実施した。各プログラムの質疑応答からも同窓生の高い関心がうかがわれ、多くの参加と活発な意見交換が見られた。また、有識者会議では、各同窓生からMIRAI事業を通じた学びや、日本に関してどのような活動を実施しているかの共有がなされた。

II. SNS や広報事例

(1) 招へい (対面)

2025 年度 MIRAI 事業において、本招へいでは SNS・SNS 以外を含み、合わせて一人当たり平均 13.8 回 (425 回の発信/参加者 32 名)、フォローアップにおいては一人当たり平均 1.5 回 (149 回の発信/参加者 94 名) の発信 (SNS・SNS 以外を含む) を確認した。

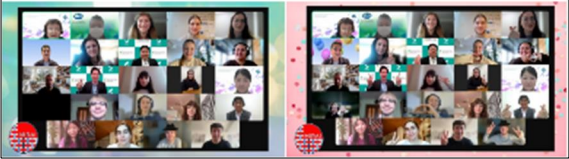
SNS 発信	日本語訳(概要)
第 1 グループ (平和構築) 	2026 年 2 月 25 日 (LinkedIn) 北マケドニア 大学院生 写真からは、私たちがどれほど楽しんだか、あるいはどれほど深く文化を体験したかは、あまり伝わらないかもしれません。表面だけを見れば、とてもフォーマルに映るかもしれません。しかし、2 月 13 日から 19 日までの日本での文化交流は、本当に人生を変える経験でした。自分とは大きく異なる文化を直接体験することは、どんな教科書でも教えてくれない視点の変化をもたらします。 私たちは、この国を形作ってきた歴史に触れ、そしてその後の復興を支えたレジリエンスを目の当たりにしました。何より、平和構築がなぜこれほど重要なのか、その本質を深く理解できたことが最大の学びでした。これは、より良い教育システムを目指して活動している若者である私にとって特に意味のあるものです。平和構築は国全体の未来を左右するからです。私たちが学んだこと、日本をどう理解したかを共有する機会として、外務省を表敬訪問できたのは大変光栄でした。また、国際協力機構 (JICA) の職員の方々ともお会いし、日本が西バルカン諸国で実施しているプロジェクトについて学ぶこともできました。 この経験、学び、そして忘れられない時間を共につくってくれたすべての方々に心から感謝します。正直、すべてを一つの投稿で書くのは難しいほどです。でも私は信じています。私たち、西バルカン 6 か国の代表として、このプログラムのアンバサダーとして、未来 —— 「MIRAI」 を、例え小さくてもより良い形にしていけると。

第2グループ (外交・安全保障) We began our journey at the National Museum of Territory and Sovereignty in Tokyo. We were introduced to Japan's official positions on its territorial issues, including the Northern Territories. Regardless of where one stands on these sensitive topics, hearing the Japanese perspective firsthand is essential for fruitful bilateral conversations. True diplomacy requires the ability to listen and observe as a neutral party. Understanding the host country's narrative is the first step toward mutual respect and finding proper solutions to complex regional challenges. I look forward to using this experience to further bridge gaps in understanding. #MIRAI2025 #sharemyMIRAI #Japan #Tokyo #Diplomacy #InternationalSecurity 	2026 年 1 月 15 日 (Instagram) ハンガリー 大学院生 東京にある「領土・主権展示館」から今回の旅が始まりました。ここでは、日本の領土問題に関する公式な立場について説明を受けました。北方領土を含む繊細なテーマではありますが、日本側の視点を直接聞くことは、建設的な二国間対話にとって欠かせないものだと感じました。 外交には、本当の意味での中立的な立場で物事を聞いたり、観察する能力が求められます。相手国の観点を理解することは、相互の敬意を深め、複雑な地域課題に対する適切な解決策を見つけるための第一歩です。今回の経験を通じて、相互理解を深めるために役立てたいと思います。
第3グループ (SDGs ビジネスとイノベーション)  A day that touched my mind, my heart, and my soul. 🌸 Yesterday was more than just a program day. It was a journey inside myself. We started the day in Kamakura, visiting the Great Buddha at Kotokuin Temple. Standing there, in silence, I felt something very deep. Fulfillment, emotional reconnection, peace, and calmness. It was not about religion - it was about presence. About stopping for a moment, breathing, and feeling whole. That calm stayed with me for the rest of the day. Later, at Keio University, we had lectures and discussions about SDGs, sustainability, and global challenges. What impressed me the most was not only the knowledge, but the way Japanese students and professors think and communicate - openly, respectfully, deeply. We didn't just talk about problems, we searched for meaning, responsibility, and real impact. I left with many thoughts about how change starts from awareness, education, and community - and how this can be applied both in Japan and in Moldova. Throughout the day, I kept thinking about something very special: how Japanese people combine hard work, punctuality, discipline, and excellence - without rushing, without chaos. Everything is done carefully, with respect for others. It feels like they have a different kind of soul - a soul filled with recognition, respect, and a deep understanding of the world and the people around them.	2026 年 1 月 16 日 (Instagram) モルドバ 大学院生 心と魂に触れる一日でした。 鎌倉の大仏の前に立ち、静けさの中で満たされる感覚と安らぎを感じました。それは宗教ではなく、「今ここにいること」を大切にする時間でした。 その後、慶應義塾大学で SDGs や持続可能性について学び、日本の学生や先生方の、敬意と深さのある対話に感銘を受けました。問題だけでなく、意味や責任、実際の行動について考える時間でした。一日を通して、日本の人々が勤勉さや規律を慌ただしさなく保ち、周囲を思いやって行動していることが心に残りました。 夜は渋谷へ。買い物や食事、スクランブル交差点、ハチ公像など、東京のエネルギーを満喫しました。

	日本は、心が落ち着き、幸せを感じられる「もう一つの故郷」のような場所です。
第4 グループ (法の支配)	
Continuing to share insights from the MIRAI Program, the following days included a series of highly informative lectures, discussions, and institutional visits in Japan 🇯🇵, focused on the rule of law and justice systems. One of the key sessions was held at the Ministry of Justice of Japan, where discussions focused on Japan's 🇯🇵 role in upholding and promoting the rule of law internationally through the work of the International Cooperation Department (ICD) and the Research and Training Institute, particularly in the field of legal technical cooperation. Representatives shared their experience in cooperation with partner countries, including support in drafting and amending basic laws, improving legal and judicial systems, and capacity-building of legal professionals. Another important meeting took place at the Supreme Court of Japan, 🇯🇵 where we discussed the Japanese criminal justice system, including the saiban-in (lay judge) trial system, as well as administrative litigation. The discussion also addressed the constitutional role and powers of the Supreme Court, including constitutional adjudication and constitutional litigation. Additionally, we visited Keio University, one of the leading universities in Japan, 🇯🇵 where we attended a lecture on good governance, the rule of law, and global justice delivered by Professor MATSUO Hiroshi. Following a very engaging discussion, participants were kindly presented with his book, Politics, Economy and Law in Developing Asia. The program is ongoing and also includes cultural activities, which are an essential part of the MIRAI experience. I will share reflections on these activities as they represent an equally important dimension of mutual understanding and exchange. 🇯🇵 🇮🇹 🇺🇸 #MIRAI2025 #MIRAIalumni #sharemyMIRAI #Japan #KeioUniversity #MinistryofJustice 	2026 年 1 月 17 日 (LinkedIn) ジョージア 社会人 MIRAI プログラムでの洞察を共有しながら、法の支配と司法制度に焦点を当てた、非常に有益な一連の講義、討論、及び日本の機関訪問が行われました。 重要なセッションの一つは、法務省で開催され、国際協力部 (ICD) 及び司法研修所の活動、特に法務技術協力の分野における、国際的な法の支配の維持と促進における日本の役割について議論が行われました。代表者は、基本法の起草・改正の支援、法制度・司法制度の改善、法務専門家の能力開発など、パートナー国との協力における経験を共有しました。 もう一つの重要な会合は、最高裁判所で開催され、裁判員制度や行政訴訟など、日本の刑事制度について議論しました。また、憲法の裁定や憲法訴訟など、最高裁判所の憲法上の役割と権限についても議論しました。 さらに、日本を代表する大学の一つである慶應義塾大学を訪問し、松尾弘教授による「良き統治、法の支配、グローバル・ジャスティス」に関する講義を聴講しました。 非常に活発な議論の後、参加者には松尾教授の著書『発展するアジアの政治・経済・法』が贈呈されました。 プログラムは続いており、文化活動も含まれています。これらは MIRAI 体験の重要な要素です。相互理解と交流の同様に重要な側面を構成するこれらの活動について、考察を共有します。

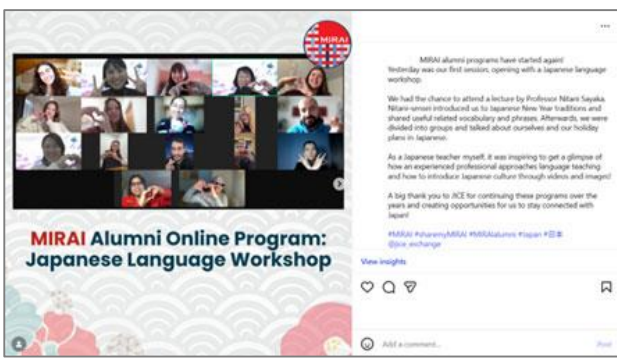
(2) フォローアップ

ア 海外展開をしている日本の事業組織を交えた同窓会

SNS 発信	日本語訳(概要)
① 独立行政法人日本学生支援機構 (JASSO) 🌱 Today I had the chance to participate in the "Reconnecting Japan" online meeting, organized by Japan International Cooperation Center (JICE) in cooperation with JASSO (Japan Student Services Organization) and specifically held for MOFA MIRAI Program Alumni participants. 📺 During the session we listened to insightful lectures by Mr. Miyai Tomohiro (Deputy Director, Student Exchange Department) and Mr. Okada Takuya (Study in Japan Unit, Student Exchange Department) from JASSO. They introduced the study abroad programs in Japan offered and provided a complete overview of the Japanese higher education system, including application requirements, English and Japanese proficiency standards for admission, living costs to consider and, most importantly, fully funded scholarship opportunities in Japan for international students. We learned that Japan currently hosts over 336,000 international students with numbers steadily increasing, as well as growing employment opportunities for those who decide to stay after graduation! 💡 We also heard two inspiring personal journeys shared by Ms. Edisa Shoshi and Mr. Abdulaziz Yunusov, MEXT scholarship recipients who presented their academic paths at the University of Tokyo and Keio University. Through their experiences, Edisa-san and Abdulaziz-san explained how studying in Japan meant accessing a world-class education within an international academic environment for them, while still benefiting from extensive scholarship support. They highlighted how graduate program studies in Japan are strongly research-oriented, with students receiving constant feedback and actively participating in conferences and academic activities in the country and abroad. ▪ Listening to these presentations made me remember my own time in Japan. Thanks to one of JASSO's scholarships, I was able to attend Japanese classes for one semester at Kobe University during my Master's degree without paying any tuition fees: an opportunity that definitely shaped my academic and personal journey for the better and significantly improved my language skills. A heartfelt thank you to JASSO for giving me the opportunity to take part in the Student Exchange Support Program in Kobe: it was the most enriching experience of my life! ▪ For anyone considering an experience abroad, I strongly encourage you to learn more about the opportunities offered by JASSO. With English-taught degree programs, Japanese-language tracks and multiple scholarship options, there is a possible path for students from many different backgrounds to study in Japan and take this life-changing step. 🙏 どうもありがとうございました！ 	2025 年 12 月 19 日 (LinkedIn) イタリア 社会人 今日はオンライン同窓会に参加する機会がありました。この同窓会は、日本国際協力センター (JICE) が日本学生支援機構 (JASSO) と協力して開催し、外務省の MIRAI プログラムの同窓生を対象としたものです。セッションでは、JASSO の宮井智宏氏 (学生交流部副部長) と岡田拓也氏 (学生交流部・日本留学情報課) による非常に有益な講義を聞きました。彼らは、日本で提供されている留学プログラムを紹介し、出願要件、英語・日本語能力基準、生活費の考慮点、そして何よりも全額支給奨学金の機会を含む、日本の高等教育制度の全体像を詳しく説明して下さいました。現在、日本には約 33 万 6 千人以上の留学生在籍しており、その数は着実に増加しています。また、卒業後に日本に残る人々にとって、雇用機会も拡大しています。 さらに、MEXT 奨学金を受けたエディサ・ショシ氏とアブドゥラジズ・ユヌソフ氏による、東京大学と慶應義塾大学での学術的な歩みについての感動的な体験談を聞きました。彼らは、日本で学ぶことが、国際的な学術環境の中で世界水準の教育を受けることを意味し、奨学金による大きな支援を受けながら学べることを説明しました。また、日本の大学院教育が強く研究志向であり、学生が継続的なフィードバックを受け、国内外の学会や学術活動に積極的に参加していることを強調しました。これらの発表を聞いて、自分自身の日本での経験を思い出しました。JASSO の奨学金のおかげで、修士課程中に神戸大学で 1 学期間、日本語の授業を受けることができ、授業料を一切支払う必要がありませんでした。この機会は、私の学術的・個人的な成長に大きな影響を与え、語学力を大幅に向上させました。JASSO に心から感謝します。神戸での学生交流支援プログラムに参加できたことは、私の人生で最も充実した経験で

	した！ 海外での経験を検討している方には、JASSO が提供する機会についてぜひ詳しく知っていただきたいと思います。英語で学べる学位プログラム、日本語コース、複数の奨学金制度があり、さまざまな背景を持つ学生が日本で学び、この人生を変える一歩を踏み出すための道があります。 どうもありがとうございました！
--	--

ア オンライン訪日プログラム

SNS 発信	日本語訳(概要)/英語 (原文)
日本語と日本文化	
	2025 年 12 月 12 日 (Instagram) ギリシャ 社会人 MIRAI 同窓会プログラムがまた始まりました。 昨日は一回目で日本語のワークショップでした。 仁谷紗耶香先生の講義を聴講する機会に恵まれました。仁谷先生は、日本のお正月の伝統やよく使われる単語やフレーズを教えて下さいました。その（講義の）後、私たちはグループに分かれて日本語でお正月の予定などを話し合いました。 私自身も日本語の教師をしています。経験豊かなプロの日本語講師の教授法や動画や画像を使って日本文化を紹介することなどを教わり、とても勉強になりました。 このように、数年に亘ってこのようなプログラムを開催し私たちが日本とのつながりを持続ける機会を作っていただき、心から感謝しています。
学校交流（奈良国立大学機構 奈良女子大学、国立大学法人 神戸大学）	

 Instagram post from MIRAI Alumni Program. The post features a collage of photos of students and a text overlay that reads: "Last week, as part of the Mirai Alumni Program, I took part in a very engaging online exchange with students from the Nara National Institute of Higher Education and Research." The post also includes the hashtag #MiraiAlumni and a thank you message to JICE for providing opportunities to stay connected and continue supporting students even after their stay in Japan.	2025 年 12 月 24 日 (Instagram) イタリア 大学院生 先週、MIRAI 同窓生プログラムの一環として、奈良国立大学機構の学生の皆さんと非常に有意義なオンライン交流に参加しました。このような貴重な機会を設けていただき、日本滞在後も私たち同窓生をつなぎ、継続的に支援して下さいていることに心より感謝いたします。
--	--

イ 有識者を交えた意見交換会

SNS 発信	日本語訳(概要)
This week, I had the honour of presenting at MIRAI's online program! I was able to share how my life changed after the program, being welcomed by many new opportunities, having new insights and much more confidence! Silvia-san and Leart-san, fellow MIRAI alumni, also gave lovely presentations about their experiences and discussed how travelling to Japan as part of the program has affected them. After the presentations, professors Komatsu Taro (Sophia University) and Hashida Tsutomu (Nara International Strategy Center) shared thoughts on the program, as well as how it could further be enriched. All alumni were took part into a meaningful conversation and I hope we can all come together to bring the wonderful ideas that were mentioned to life! I wish the MIRAI program keeps evolving, bridging our countries and encouraging dialogue. Thank you to the MIRAI team for giving me this opportunity! It was a beautiful experience! #MIRAI #MIRAIalumni #sharemyMIRAI #Japan JICE's International Exchange Programs  MIRAI Alumni Online Program:	2026 年 3 月 23 日 (LinkedIn) ギリシャ 社会人 今週、MIRAI のオンラインプログラムで発表するという光栄な機会をいただきました！ プログラム参加後に私の人生がどのように変わったのか、多くの新しい機会に恵まれ、新たな気づきを得て、そして自信が大きく高まったことなどを共有することができました。 また、MIRAI の同窓生である Silviaさんと Leartさんも、それぞれの経験について素晴らしい発表を行い、プログラムの一環として日本を訪れたことがご自身にどのような影響を与えたのかを語ってくれました。 発表後には、小松太郎教授（上智大学）と橋田務教授（奈良国際戦略センター）が、プログラムについてのご意見や、今後さらにどのように発展させていけるかについて考えを共有してくださいました。卒業生全員がこの意義深い対話に参加し、そこで挙げられた素晴らしいアイデアを、ぜひ皆で形にしていけたらと思います。 MIRAI プログラムがこれからも進化を続け、国と国とをつなぎ、対話を促進する架け橋であり続けることを心から願っています。 本当に素晴らしい経験でした！

2. 広報 好事例

招へい：MIRAI 第1グループ（平和構築） 発行元：西バルカン地域青年協力機構（RYCO） ホームページ	日本語タイトル： MIRAI 2025/2026 コホート、平和構築交流のため 13 名の若手リーダーを日本へ招へい 原文タイトル: MIRAI 2025/2026 Cohort brings 13 Young Leaders to Japan for Peacebuilding Exchange (Regional Youth Cooperation Office) リンク: MIRAI 2025/2026 Cohort brings 13 Young Leaders to Japan for Peacebuilding Exchange – Regional Youth Cooperation Office
 MIRAI 2025/2026 Cohort brings 13 Young Leaders to Japan for Peacebuilding Exchange WESTBALKANS. The 13th cohort of the youth program "Western Balkans Meet Japan: A Bridge into the Future" arrived in Japan on Monday, 11 March 2025. The group, consisting of 13 young leaders from the Western Balkans, is here for a 10-day exchange program. The program is organized by the Regional Youth Cooperation Office (RYCO) and the Ministry of Foreign Affairs of Japan. Regional activities include: - Workshops: The group will participate in various workshops on peacebuilding, conflict resolution, and leadership. - Field visits: The group will visit various locations in Japan, including Hiroshima, Nagasaki, and Osaka. - Meetings: The group will meet with Japanese officials, including members of the Ministry of Foreign Affairs. Quotes from participants: "The MIRAI journey was a truly life-changing one, as I have never returned home with a complete shift in perspective on peacebuilding, culture, technology and most importantly - myself. The people I've met, the lessons I've learned and the bond I've formed with my fellow cohort members are invaluable for me, as they have reinforced that hope really does exist. Japan as a country is no longer a mere geographical designation, but rather a part of my life from which a new pathway is formed. Thank you to the MIRAI program, to all the people behind it, and to all the people with whom I found this program!" - Isabella Kijani, MIRAI participant from Kenya "It is a life in Japan always seemed like a dream out of reach, something reminiscent of a film. To actually get there and experience it through MIRAI perfectly within a week was surreal even more so after it has happened. I am always going to be grateful for the lessons I got and for the knowledge gained about Japanese culture, people, educational system, food, economy, and history. I feel closer to Japan now than ever. And without any doubts, I am going to keep in my heart all the precious memories with the other participants and the organizers who laid the groundwork for us." - Isabella Kijani, MIRAI participant from Kenya Quote from organizers: "During our trip to Japan, we experienced the traditional side of Japanese society, but also the modern face of Japan and its rich and varied history and culture. Meeting with people from the Ministry of Foreign Affairs, Japanese students from Nagasaki University gave me a deep understanding of Japan, and I really feel like we found through Japan with culture." - Isabella Kijani, MIRAI participant from Kenya Quote from organizers: "The 13th cohort of the program is the latest in a series of exchanges between young leaders from the Western Balkans and Japan. The program is organized by the Regional Youth Cooperation Office (RYCO) and the Ministry of Foreign Affairs of Japan. The program is designed to provide young leaders from the Western Balkans with a unique opportunity to learn from Japanese officials and citizens, and to build a strong foundation for future cooperation between the two regions." 	西バルカン地域 ― 青少年交流プログラム「Western Balkans Meet Japan: A Bridge into the Future（西バルカン、日本と出会う：未来への架け橋）」の第6サイクルが無事終了しました。今回のプログラムでは、西バルカン地域から選抜された若手代表 13 名と、RYCO ローカル・プログラム・オフィサーであるフルツラ・ブラカイ氏が日本を訪問し、制度対話、平和教育、文化理解に重点を置いた 1 週間の集中プログラムに参加しました。 本訪日は、日本国外務省（MOFA）および JICE が、地域青年協力機関（RYCO）と協力して実施する「MIRAI – Japan's Friendship Ties Program（友情交流計画）」の一環として、2026 年 2 月 13 日から 19 日にかけて行われました。東京でのハイレベルミーティングと、広島での平和学習を組み合わせたプログラム構成により、参加者は日本の平和構築の歩みや社会的価値観について、より深い理解を得ることができました。 東京滞在中、参加者は上智大学での学術交流に参加し、日本の学生との対話を通じて、地域課題やグローバルな責任について率直に意見を交わす機会を持ちました。また、一行は有富恵利外務大臣政務官および外務省欧州局の担当者との懇談を行い、日本と西バルカン地域の協力関係や、平和と安定の促進における若手リーダーの役割について意見交換を実施しました。さらに JICA 本部を訪問し、日本の開発協力および地域の平和構築に関するアプローチについての理解を深め、制度的枠組みと帰国後の和解プロセスの現実を結び付けて考える機会となりました。

「MIRAI での旅は、まさに人生を変えるような体験でした。平和構築、文化、社会学、そして何より“自分自身”について——ここまで視点が大きく変わって帰国したことは、これまで一度もありません。出会った人々、学んだこと、そして（もちろん）味わった食べ物のすべてが、私の視野を広げ、希望は本当に存在し続けるのだと再確認させてくれました。“日本”という言葉は、もはや単なる地理的な名称ではありません。私の人生において、新たな道が始まった地点を意味するものになりました。MIRAI プログラム、そしてこのプログラムを支えてくださったすべての方々、共にこの時間を過ごした仲間に心から感謝します。」

— イヴァナ・ヴチェティッチ（ボスニア・ヘルツェゴビナ／MIRAI 参加者）

プログラムの中核を成す、深い省察を促す要素となったのが、広島訪問でした。広島平和記念資料館の見学や、平和記念公園でのガイド付き平和ツアーを通じて、参加者は紛争がもたらす影響や、対話・和解・持続的な平和の促進において若い世代が果たすべき責任について考える時間を持つことができました。

また MIRAI 参加者は、宮島や厳島神社の訪問、伝統工芸体験をはじめ、東京での浅草寺や皇居外苑などの文化的名所の見学を通じて、日本の文化遺産にも触れることができました。

「日本への旅は、これまでずっと手の届かない夢のようで、まるで映画の中の出来事のように感じていました。それが実際に MIRAI を通して、たった1週間で現実となり、すべてを体験できたことは、今でも信じられないほどです。日本の文化、人々、教育制度、食べ物、経済、歴史について学んだこと、そしてそこで得た数々の教えに、心から感謝しています。日本のことが、これまで以上に身近に感じられるようになりました。そして何より、共に時間を過ごした参加者の皆さんや、私たちを丁寧に支えてくださった運営の方々との大切な思い出は、これからもずっと心に大切にしまっておきます。」

— ハティチェ・ミシニ（コソボ／MIRAI 参加者）

制度的なプログラムに加えて、本事業は豊かな文化体験の機会も提供しました。日々の交流や文化施設の訪問、受入先とのふれあいを通じて、参加者は日本が大切にしている“おもてなしの心”、敬意、そして細部へのこだわりを肌で感じることができました。こうした体験は単なる見学にとどまらず、より深い相互理解を育み、参加者同士の地域内の絆を強めるものとなりました。

その結果、西バルカン地域における協力、対話、そして平和的共存という価値をあらためて確認し、グループ全体としてこれらの価値を今後も大切にしていける意識が高まりました。

「日本への旅では、宮島や浅草寺で日本の伝統的な一面に触れただけでなく、東京の現代的な姿、そして広島が持つ歴史的で非常に重要な側面も体験することができました。外務省の方々や上智大学の学生との対話を通じて、日本への理解は大きく深まり、まさに“日本を丸ごと体験した”と感じています。」

— アレクサンダル・ヤコヴリエヴィッチ（セルビア／MIRAI 参加者）

本サイクルの終了により、西バルカン地域における MIRAI 同窓生ネットワークは、合計 91 名の若手リーダーへと拡大しました。プログラムの長期的な効果は訪日後も続いており、同窓生たちは引き続き、RYCO が支援する各種の若者イニシアティブ、異文化対話、そして地域協力の取り組みに積極的に関わり続けています。

招へい：MIRAI 第2グループ（外交・安全保障）

発行元：ヨーテボリ大学

日本語タイトル：エルサ、MIRAI プログラムに応募し、日本での素晴らしい1週間を体験

原文タイトル: Elsa sökte MIRAI-programmet och fick en fantastisk vecka i Japan

リンク: [Elsa sökte MIRAI-programmet och fick en fantastisk vecka i Japan | Göteborgs universitet](#)

Ena sista MIRAI-programmet och fick en fantastisk vecka i Japan

Studenten Elsa Wärlbeck är nya hembornas från Tokyo och hon deltog i ett utbytesprogram till Japan som en del av det japanska utbytesprogrammet - MIRAI-programmet. Programmet syftar till att främja handelsrelationerna mellan Japan och Europa.



Elsa Wärlbeck, student vid Göteborgs universitet.

När Elsa Wärlbeck kom till Japan var hon mycket imponerad över den stora kulturen och de många mötena med japaner. Hon var också mycket imponerad över den stora kulturen och de många mötena med japaner. Hon var också mycket imponerad över den stora kulturen och de många mötena med japaner.

Det är ett program som syftar till att främja handelsrelationerna mellan Japan och Europa. Det är ett program som syftar till att främja handelsrelationerna mellan Japan och Europa. Det är ett program som syftar till att främja handelsrelationerna mellan Japan och Europa.

Studerandebesök, föreläsningar och kultur

Under sina vistelser i Japan fick Elsa Wärlbeck möta många japaner och de var mycket imponerade över den stora kulturen och de många mötena med japaner. Hon var också mycket imponerad över den stora kulturen och de många mötena med japaner.

Programmet gör en gång om året

Detta program kommer att fortsätta att göras varje år och det är ett program som syftar till att främja handelsrelationerna mellan Japan och Europa. Det är ett program som syftar till att främja handelsrelationerna mellan Japan och Europa.

Kort om Elsa Wärlbeck

Elsa Wärlbeck är en student vid Göteborgs universitet och hon är en av de många som har deltagit i MIRAI-programmet. Hon har varit i Japan under en period och hon har varit mycket imponerad över den stora kulturen och de många mötena med japaner.

(以下、コパイロットによるスウェーデン語からの翻訳)

学生のエルサ・ワールベックさんは、日本政府が主導する1週間の交流プログラム「MIRAI プログラム」に参加し、東京から帰国したばかりです。

このプログラムは、日本とヨーロッパの将来的な協力関係を促進することを目的としています。

私の名前はエルサ・ワールベックで、現在ヨーテボリ大学で政治学を専攻し、最終学期を迎えています。2026年1月中旬、私は光栄にも日本の首都・東京を訪れ、MIRAI 欧州プログラム 2025/2026 の枠組みの中でスウェーデン代表として参加する機会を得ました。

MIRAI という言葉は Mutual-understanding, Intellectual Relations and Academic Exchange Initiative の頭文字を表すと同時に、日本語で「未来」を意味します。

このプログラムは日本政府によって開始されたもので、将来国際的な場で活躍することが期待される若手リーダーを招へいすることを目的としています。参加者が日本およびその政策上の優先分野についてより深く理解することで、相互理解を促進し、日本と世界各地との間に将来の友情と協力の基盤を築くことが狙いです。

私は、全4グループのうち、安全保障政策と外交をテーマとする第2グループに参加しました。私のグループには、ヨーロッパのさまざまな国々から約20名の参加者が集まっていました。

視察、講義、そして文化体験

日本滞在中、私たち参加者は日本の文化や食、そして東京タワーや国立博物館といった観光名所を体験する機会を得ました。富士山を訪れた際には、文化遺産センターで日本における富士山の仏教的・歴史的意義について学び、抹茶の講義では、自分で点てた抹茶を味わう体験もしました。また、さまざまな寺院も参拝しました。さらに、外務省、防衛省、そして日本を代表する大学の一つである慶應義塾大学にも訪問しました。

これらの視察では、日本の安全保障環境、国際的な人道安全保障への日本の貢献、さらには韓国・ロシア・中国といった近隣諸国との領土問題について、理解を深めるための講義を受けました。また、日本が唯一の同盟国であるアメリカとの今後の協力をどのように捉えているかについても詳しく学びました。

いずれの訪問先でも繰り返し強調されていたのは、不確実性が増し、多くの国がルールに基づく国際秩序から距離を置きつつある現代において、日本にとって欧州およびEUとの関係は、リベラルな国際秩序を維持するうえで極めて重要であるという点でした。

プログラムは年に一度実施されます

MIRAI プログラムに応募する機会を得た方には、ぜひ挑戦してほしいと心から思います。日本についての知識を深められるだけでなく、ヨーロッパや日本からの学生たちと生涯続く友情を築ける、忘れられない体験だからです。

プログラムは年に一度開催されており、日本についての専門知識がなくても参加できますし、大きな

経済的負担も必要ありません。日本政府がほぼすべての費用を負担し、航空券、ホテル、移動手段、そして東京での1週間を最大限に活かせるよう綿密に計画されたスケジュールをすべて手配してくれます。

参加者はただ現地を訪れ、楽しみ、数々の新しい学びや刺激、経験を吸収するだけで良いのです。

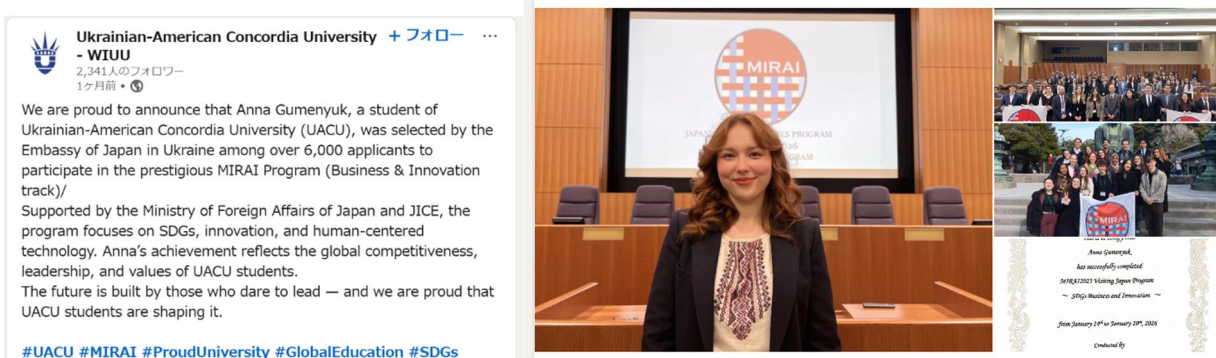
テキスト：エルサ・ワールベック（政治学プログラム所属学生）

協力：アンナ＝カリン・ルンデル（政治学部広報担当）

招へい：MIRAI第3グループ（SDGs ビジネスとイノベーション）

発行元：ウクライナ・アメリカン コンコルディア大学（UACU）

リンク: (12) 投稿 | LinkedIn



ウクライナ・アメリカン コンコルディア大学（UACU）の学生であるアンナ・グメニュークさんが、6,000 名を超える応募者の中から在ウクライナ日本国大使館に選出され、名誉ある MIRAI プログラム（ビジネス＆イノベーション部門）に参加することとなりました。

日本国外務省および JICE により支援されている本プログラムは、SDGs、イノベーション、人間中心のテクノロジーに焦点を当てた取り組みです。アンナさんの選出は、UACU の学生が持つ国際的競争力、リーダーシップ、そして価値観を象徴しています。

未来を築くのは、リードする勇気を持つ者たちです。UACU の学生がその未来を形作っていることを、私たちは誇りに思います。

招へい：MIRAI第4グループ（法の支配）

発行元：西村あさひ法律事務所・外国法共同事業

日本語タイトル：“MIRAI”プログラムの一環として中央アジア・コーカサス地域の学生・若手専門家が
オフィスを訪問：WTO、EPA/FTA、国際投資法に関する講義を実施

原文タイトル: Office Visit by Students and Professionals from Central Asia and Caucasus Region
as part of “MIRAI” Program: Lectures on WTO and EPA/FTA and International Investment Law

リンク: [Office Visit by Students and Professionals from Central Asia and Caucasus Region as part
of “MIRAI” Program: Lectures on WTO and EPA/FTA and International Investment Law | News |
Nishimura & Asahi](#)

Office Visit by Students and Professionals from Central Asia and Caucasus Region as part of "MIRAI" Program: Lectures on WTO and EPA/FTA and International Investment Law

Undergraduate, graduate students, and working professionals from eight countries in the Central Asia and Caucasus region visited our office in Tokyo as part of Japan's Friendship Ties Program "MIRAI," Group 4 (Rule of Law) on Jan. 19, 2025. MIRAI is an exchange program promoted by the Japanese Government, aiming to enhance interaction between people from all over the world and facilitate a better understanding of Japan.



During the visit, our lawyers gave talks on WTO and EPA/FTA as well as international investment law. The theme of these lectures were: (1) "Building a Rule-Based International Economic Order through Multiple FTAs" by Yukiko Hatakeyama and (2) "Protection of Foreign Investments and Settlement of Investment Disputes" by Masahiro Maeda. The participants asked many questions, which turned into a lively discussion.

We hope that this lecture will help deepen participants' understanding of the rule of law through enhanced understanding of Japan's WTO-related and EPA/FTA-related policies, as well as the practical aspects of international investment law.

Date

2026.2.2

People

• Yukiko TOMIHATSU
• Masahiro MAEDA
• Yusuke HATAKEYAMA

Experience

• WTO / Regional Trade Agreements
• International Investment Agreements & ISDS
• Investor-State Dispute Settlement
• Alternative Dispute Resolution
• Pro Bono

2025 年 1 月 19 日、中央アジアおよびコーカサス地域の 8 か国から、学部生、大学院生、そして若手専門家が「MIRAI」プログラム（グループ 4：法の支配）の一環として東京の弊所を訪問しました。MIRAI は、日本政府が推進する国際交流プログラムであり、世界各国の人々との交流を促進し、日本への理解を深めることを目的としています。

訪問当日は、弊所の弁護士が WTO および EPA/FTA に関する講義、さらに国際投資法に関する講義を行いました。講義テーマは以下のとおりです。

1. 「複数の FTA によるルールに基づく国際経済秩序の構築」（畠山祐介）
2. 「外国投資の保護と投資紛争の解決」（前田基宏）

参加者からは多くの質問が寄せられ、活発な議論が交わされました。

本講義が、日本の WTO 関連政策や EPA/FTA 政策、さらに国際投資法の実務的側面に対する理解を深め、「法の支配」への認識向上に寄与することを願っています。

MIRAI 事業継続の重要性

ロシアによるウクライナ侵攻の長期化に加え、中東情勢の不安定化、さらには欧州域内における安全保障環境の変化や社会的分断の顕在化など、国際情勢は依然として不確実性を増しています。このような状況下において、国家間のみならず人と人との信頼関係を基礎とした相互理解を深化させ、平和で安定した国際関係を支える人的交流の意義は、従来にも増して高まっています。

MIRAI プログラムを一過性の交流にとどめることなく、参加者が生涯にわたり日本と関わり続けるためのプラットフォームとして機能させることができれば、それは欧州における対日理解と信頼を支える外交基盤の強化に直結すると考えます。こうした観点からも、本事業の継続的な実施は、今後の日本外交にとって極めて重要であると期待します。

* プログラム参加中の様子や参加者の声は SNS を通して広く発信されています。
X(旧 Twitter)、Instagram、Facebook ハッシュタグ：#MIRAI2025 #MIRAI